



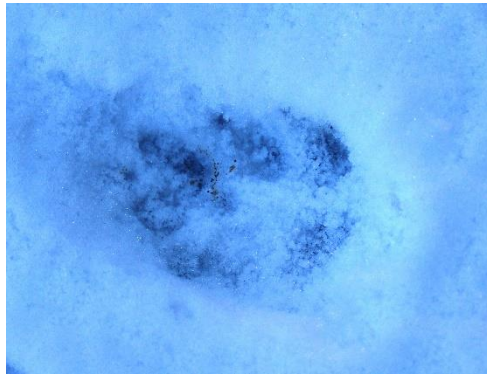
愛川ふれあいの村 今月の風景

2022年1月 自然のたより

日本海側は連日の冬将軍の到来で、積雪 2mを超える地域も出てきています。関東地方も 1月6日は4年ぶりの大雪で、村も 10cmの積雪がありました。早朝の散策では野鳥たちも寒さのせいなのか、それとも最近の鳥は朝寝坊になってしまったのかと心配するほど姿を現してくれません。ようやく太陽の暖かさを感じるころ、木々の枝を渡り、虫を探したり、落ち葉をひっくり返して餌を探す姿に出会えます。間もなく大寒。まだまだ厳しい寒さが続きます。(高梨)



ウメ



フィールドサイン



穂を運ぶクロナガアリ



アオジ



雪のセグロセキレイ



メジロ



スイセン



ツミ



カシラダカ



カケス



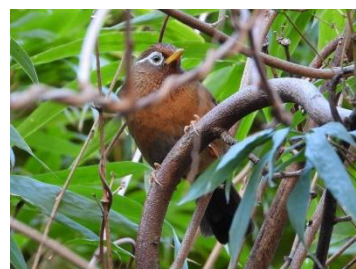
アオバト



冬眠中のワカバグモ



ツミを追い払うトツミ



ガビチョウ



ヤマガラと冬芽

トピックス ★ものまね?よこどり?★

過去の自然のたよりでも表紙や話題として、たびたび取り上げているモズ。村では毎年、数羽が縄張りをつくるため、その鳴き声を聞いたり、よく観察できます。

実はこのモズ、他の鳥のものまねをするのです。まねをする行動は他の鳥でも確認されていますが、最近モズのものまねを観察しました。鳴き声をまねることは他の鳥にもよく見られますが、モズはエサの捕り方をまねします。私が今までに見た行動は、メジロのようにマユミの実を食べていたこととシロハラのように落ち葉をひっくり返して冬眠するアカスジキンカメムシをたべていたこと。肉食のモズがマユミの実を飲み込んだのかまでは見ることができなかったのですが、おそらく食べるまねをしたのではないかと考えます。果たして何のためにそのような行動をとるのでしょうか。

他の鳥のものまねをして、できることをふやしているのでしょうか。それを生きるための戦略としているとしたら、賢い方法かも知れません。“本能的なもの”と親から教えてもらうことと他の鳥からまねること＝生きる力”なのではないでしょうか。しかし、他の鳥を追い払ってまで、ものまねをしなくてもいいのでは?とってしまうのは私だけでしょうか?

もしかして、仲良くしたかったのか? (石川)



生き物 ★身近な自然★

かつて同僚の机上のフォトフレームの中に愛らしい小鳥。北海道に棲むシマエナガです。本州のエナガに比べ、顔が白くとても人気の高い野鳥です。シマエナガを求めて北海道に出かける人も多いことでしょう。でもその同僚は職場に植えられているケヤキ並木をチーチー、ジュリジュリと鳴きかわしながら仲間と一緒に木々の枝を渡っている本州のエナガのことは知りません。

冬は野鳥観察の絶好の季節です。身近な自然に目を向けると高山や北国からやって来た野鳥が観察出来ます。暖かい格好をして近所の公園や林に出かけましょう。遠くへ行かなくても楽しい出会いがきっとあります (高梨)



旬 ★こうじ★

愛川ふれあいの村では、毎年2月に『親子で味噌づくり』を行います。その為、味噌を作るのに大切な『こうじ』を1月から仕込み始めます。こうじとは、こうじ菌を穀物(米・麦・大豆)などに培養させて使用します。今回は、味噌に使用する米糶と麦麴を作ります。こうじには、多くの酵素が含まれていて消化・吸収を助ける役割があります。こうじを使った食品には「味噌・醤油・酒・塩麴・甘酒・米酢など」古くから調味料に使われこうじは国の菌『国菌』に認定されています。

(菅原)



来月の見どころ
穏やかな顔たちの会話
 樹木を見ると、冬芽の下に様々な葉痕が見られます。葉痕とは葉の落ちた痕の事です。植物の水分や養分の通路の跡で形が違い動物の顔に見えます。その顔は、植物の種類によって様々に見えるが、みんな穏やかな顔である。名前にオニがつくが優しい顔をしたオニグルミさんは「私たちの住む地球環境について」と問題提起をすると、村一番高いトチノキさんは「私たちの緑の力で大気汚染を無くしていこう」と呼び掛けた。トチノキさんは教科書にも掲載されているから小学生に伝えたいと力説した。小さな帽子をかぶったネムノキさんは、「生活の中で出るゴミだって活用すれば資源になるね」と話した。最後に刺だらけのサンショウさんが「もっともっと地球の仲間と呼び掛けて地球のあり方を考えよう」と話すと、みんな嬉しくなり「万才サンショウ」をして小さなことでも積みかさねようと誓った。村の中は静かですが、あちらこちらで樹木たちの声が聞こえて来るような気がする。(吉田)